

《季刊(年4回発行)》

創刊号

# こどもま〜ち



企画・編集：こどもとまち支援の専門ネットワーク

## はじめまして



“こどもとまち支援の専門ネットワーク”は、子育てやまちづくりの専門機関から情報を集め、本当に使える情報を、本当に必要としている人に伝えるつながりを作っていく仕組みです。そんな中から「こどもま〜ち」は生まれました。



私がまちのエキスパネット(NPO法人)で子育て支援に関わりながら痛切に感じたことは、子育てにつまずき、悩みながらも誰にも相談できずに孤独な子育てをしているお母さんが多いということです。つまずきは時に深刻化し、こどもの成長に支障をきたしてしまうこともあります。そこで「こどもま〜ち」が支援者の悩みを受けとめ、ネットワークを作るきっかけとします。お母さん・お父さんはもちろん、保育園・幼稚園・学校の先生などなど、地域でこどもと関わる人に読んでいただきたいです。地域の様々な人と繋がり、一人にしない子育てにしていきたいと思っています。地域のまち情報も盛りだくさん。今すぐ役立つ・知って得するこどもとまちの情報をお届けします！暮らしに根差した情報誌「こどもま〜ち」をよろしくお願いします！

「こどもま〜ち」編集室長 岩谷 直子

## 「現代・子育て事情」

黒柳 <sup>まさお</sup> 允男(小児科医)



まずは、新しい情報誌「こどもま〜ち」のスタートおめでとうございます。

私たちをとり巻く子育ての環境は、幸い少しずつではありますが、良くなってきていて、今年になり、政府から「子ども手当」が支給されるようになり、春日井市でも中学生までの「医療費が無料化」されました。しかし、わが国の【家族関係の社会支出】は、フランスやスウェーデンの約4分の1に過ぎず、子育てに対する政府の対応はとても弱腰であります。たとえば、私の専門とする母子医療分野では、お産に対する支出が少ないので、産科医が不足し救急に任せられないために妊婦がタライ回しに会い死亡することが起こっています(奈良県・東京都)。小児科の分野でも、医療費単価が大人に比べて極端に低いので、職場環境が厳しく小児科医が不足して、診療に支障をきたしたり、過労で小児科医が自殺するなどが起こっています(東京)。もっと身近な例では、乳幼児用のヒブワクチンや肺炎球菌ワクチン、それに女子小中学生用の子宮頸ガンワクチンが、先進国では無料になっていますが、わが国では自己負担となっています。何れのワクチンも高価なのでママの負担は大変に大きいのが現状です。しかし、不平ばかり言っても何の解決にもなりません。保護者の方も身近なところから、少しでも子どものためになるように(ワクチンの無料化など)、国や自治体に働きかけようではありませんか。

<プロフィール>

小児科専門医、医学博士。名古屋市立大医学部・大学院終了後、豊橋市民病院小児科などを経て愛知県コロニー中央病院に20年間勤務。その間、米国医師免許を取得し、アメリカ・オレゴン州立大学病院小児科で子どもの診療に従事。平成元年、中央台に小児科医院を開業、現在に至る。

# いのちのページ

## 「食の話」 ～食べることは生きること～

＜五感を使う ①＞

小山 純子



記念すべき創刊号、どんなお話から始めましょうか…

「食べることは生きること」と言うのは、最近あちこちで耳にされた事があるかと思ひます。(私自身もこのテーマで何度か講演をしています。)

ただこのままではあまりに漠然としているので、これをメインテーマとして、これから何回か(?)食に関するお話を綴っていこうと思ひます。まず「食べる」という動作から。

さて「食べる時」って人間身体の中のどの部分のはたらいているのでしょうか。……手?口?

いえ、その前にまずは「目で見える」ですよ。

そして「においをかぐ」、手を使って口に運ばれた食べ物をかんで「味わう。」

かむ音は「耳で聞く」「手触りを確かめる」こともあります。

毎日、毎食! こうして「食べて」いるんですね。



「目で見える」ものって何でしょう?……まずは色。

赤、黄色、緑、白、黒 お宅の食卓にはそろっていますか?

そして形。

私自身の子育ての中で気付いた事ですが、子供ってたまに切り方を変えるとあら不思議! 昨日食べなかった野菜でも食べてくれるのですねえ～

嫌いだからってみじん切りにするばかりでなく、たまにはでっかいぶつ切りにしたり、スティックにして手に持たせたり、花形、飾り切り??? う～ん時間ある方はどうぞ。

おにぎりも△、○、俵型、サンドイッチだって挟むだけでなく巻いてみる、等々。ただ、おにぎりやサンドイッチは極力「小さめに作る」をお勧めします。「もう一個食べようかなあ～」と思わせる大きさです。

そして盛り付け。

子供の数がふえると「大皿盛り」になりがちですが、一人一人に盛り付けるのも「自分の食べる分」がわかって良いものです。

お弁当箱やプレートもたまには目先が変わって、いかがでしょうか?

難しい事ではないのですが、「子供の見ている前で調理する」がまず一番! かな。


＜プロフィール＞

愛知みずほ大学短期大学部非常勤講師(「臨床栄養学名論」「臨床栄養学実習」「栄養指導論II」担当)

名古屋学芸大学短期大学部非常勤講師(「調理実習D(製菓・製パン)」担当。「母が子に伝えていきたいおやつ」がコンセプト。)

名古屋大学医学部研究科NAMIS臨床研究事務局スタッフ(心筋梗塞研究スタッフとして「日本循環器学会」にて演目発表。)



お母さんになったあなたへ・・・ 

「かさおか母乳・育児相談所」(中央台)の笠岡直子先生は、母乳や育児に不安を抱える母親たちの“身近な相談役”となり、子育てに関する多様な悩みに応え、“子育て世代”を支えています。

笠岡先生は、昭和47年から名古屋大学病院で助産師として勤務。退職後は愛知県看護協会理事などの職を歴任後、平成5年に「かさおか母乳・育児相談所」を開所。現在は母乳相談を中心に認定心理士、思春期相談士として、仲間と共に「性教育」や「命」についての講演活動なども行っています。

日頃の経験から、笠岡先生は「第一子出産直後の“新米ママ”の多くは“体重の増え方、授乳の時間や回数、母乳の分泌量”などがマニュアル通りにならない事が気になるようです。出産日ですら自分の思い通りにならない事を考えてみれば…焦らずに肩の力を抜いてみませんか?」とアドバイスし、「お腹の中にいる時から“自分と我が子”は一心同体のように思いがちですが、近づき過ぎず一歩引いたところから、“姪や甥”を預かっているような気持ちで子どもを“ゆったり”と見る時間を作ってみてはどうでしょうか? 何も出来ないと思っていた赤ちゃんの“ちょっとした行動やしぐさ”に驚く程の能力を感じたり、気づくことができるかもしれませんよ。」と大らかな優しい眼差しで語ってくれました。(サ)

## 未就園児たちとの日々から

～児童デイサービス「こどもパレット」

大澤 イツ子(サービス管理責任者)



児童デイサービス「こどもパレット」は、発達に心配のある子どもとその保護者(主に  
お母さん)を対象に開所されて、3年目になります。

未就園児(0～3歳児)は、母親を中心としながらも周囲へと目が向いていく時期で、思いのままに行動して  
しまいます。目が離せず、冷静に子育てできないお母さんの姿があります。親子で家にいることを苦痛に感じ  
たり、イライラしてつい怒ってしまい、子育てを楽しんでいると感じることがないと、自分を責めてしまうお母さんも  
少なくありません。

今の状況を少しでも改善したい。子どものことをもっと分かりたいと、「こどもパレット」を保健師さんととも  
に訪問されます。そんなお母さんたちのために、「こどもパレット」を利用している時間は、スタッフも一緒に子  
育てをしていく所だということを経験してもらっています。お母さんはそれだけで、ホッとされるようです。

一人一人の子どもたちには、「こどもパレット」での過ごし方が分かるまで、繰り返してつき合っていき、なるべく  
シンプルにしながらも、自然に基本的な生活を身に付けていけるようになっていきます。子どもは少しずつ慣  
れてきて、片づけの合図で玩具を箱に入れようと、手洗いの前にはイスを運ぼうとするなど、変化が出てき  
ます。そんなわが子の姿にお母さんは気づき、嬉しさを感じていきます。子どもはやる事が分かったと、自分か  
らやろうとする気持ちがでてきます。行動にも、何処となくまとまりが出てきます。

お母さんは、子どもに障がいがあることを知ると、何もできない子なのだと思いきや、あきらめてしまいがちだけれ  
ど、ちゃんとできるようになることが分かれば、子どもの成長を楽しみにしながら、前向きに子育てをし始める  
のです。子どもが変わると、お母さんの気持ちが変わっていくのです。

お母さんに、子どもとつき合い易くなったと言われることが、何よりも喜びです。

ここで過ごす時間は、お母さんと共に育てていくように心がけています。そのためには、私たちスタッフが、  
しっかりと子どもとつき合えるように努力を怠らない気力が必要です。子どもと向き合うほどに、お母さんの  
毎日の大変さを目の当たりにします。お母さんのこれまで積み重ねた子育てを大切にしながら、「こどもパレ  
ット」で見せる子どもたちの純粋な姿が、少しでもお役に立てればと思いながら、日々親子を迎えています。  
<プロフィール>

昭和46年から平成19年まで、愛知県心身障害者コロニーで、療育部・緑の家など、障害児者の支援に携わる。

子育て支援としても幅広く活躍し、現在NPO法人まちのエキスパネットで、サービス管理責任者・相談支援従事者の資格を  
もち、未就園児の療育に携わるエキスパートである。





## 先生インタビュー



### 高森台小学校 梅本孝雄教頭先生

「振り返ると、今までにたくさんの“恩師”と呼べる、“人”として魅力ある方々に出会えたことが、教師を目指すきっかけになったのかな」と語るのは、高森台小学校の梅本孝雄教頭先生。今でも、書写や理科などを担当しながら現場で児童と接し「子ども目線」での指導を心がけつつも、時には少々熱くなり、叱咤することもあるとか。

水泳が苦手な高校生の時に猛特訓、初めて25M完泳したエピソードなどを披露する“ざっくばらんな性格”も児童や保護者から親しまれる一因ようです。

児童には、6年の時間をかけ様々なことを経験しながら「相手を尊重し、話をきちんと聞けるなどの礼節を持つこと」と、「自主性、自立心などを備え、他人に流されないで行動できる主体性のある人間」になって欲しいと願っています。(サ)

## 地域で支える “ママの子育て応援する すきっぷ”

“すきっぷ”は、月に一度20組前後の親子が参加する子育てサロン。岩成台西社会福祉協議会安井史子会長とチームリーダー中川さんを中心に多才なスタッフで地域のママたちをサポートし、小児科専門医の阪先生もスタッフの一員として、専門的な相談にのっています。

活動は、季節の行事(七夕やクリスマスなど)、パン作り、救命講習等を行い内容は充実していますが、何よりもお母さんたちが“ゆったり”過ごせることを心がけ、毎回アンケートを取りお母さんたちの要望を活動に活かしています。

参加者は、「知り合いがいなかったけれど友達の輪が広がりました。スタッフのみなさんとのお話や気軽に病気の相談もできてとてもありがたいです」と満足しているようです。

スタッフは、「こどもたちとのふれあいは楽しい」と笑顔。“すきっぷ”を卒業した若いママもスタッフとして活躍しています。こうして“すきっぷ”は、あたたかい地域の人々に見守られています。

“すきっぷ”では、障がいのある子どもたちにも元気に参加してほしいと思っています。悩みのあるお母さんも、大

“すきっぷ” お気軽に参加してください♪

開催日 毎月第1火曜日(原則) 10時~11時30分

場所 岩成台西町内会集会所 参加費 無料

連絡先 中川みどり (電話番号)92-1292

主催 岩成台西地区社会福祉協議会

集合してくださいね。(文)



素敵な先生見つけたっ!



### 「第二ひばり幼稚園」(藤山台10丁目) 主任小嶋美穂先生

「遊びいっぱい! 友達いっぱい!」を合言葉に毎日子どもたちと奮闘し、幼稚園保育に力を注ぐ、小嶋美穂先生。良い事も、悪い事(ケンカなど)も、何でも触れて体験し“自分で考える力”を育む、そこから得る事の重要性を子どもたちからも感じとっています。個性を重視、子どもとの信頼関係を築き、気持ちを通わせる事を第一と考え、“自分の子どもにさせたい”と思う事は“ひばりの子どもたちにも体験させたい”と一人一人を我が子のように思

い接する姿勢は“ひばり幼稚園の教育理念”としてしっかりと受け継いでいます。

“大きな可能性のある子どもたち”を保護者と寄り添い、理解しながら一緒に育てていく喜びを数々経験している小嶋先生は「いくら私たちが頑張っても、お母さん方には太刀打ちできません。子どもたちは皆、お母さんが大好きです。自信を持って育児をして下さい」と母親らにエールを送っています。(サ)

## まちのお知らせ

### 子どもの世界を広げる会—子ども支援者の学習の場—

児童虐待、いじめ、引きこもり、発達障がい…など、子どもたちの問題が複雑・多様化している反面、家庭や地域の子育て基盤は弱体化しつつあります。そんな中、「子どもたちの問題を語り合う場、情報交換の場、相互学習の場があったら…」との要望を受けての開催です。いろいろな分野の方々のご参加をお待ちしております。

日時：月2回火曜日 15:45～17:15（1時間半）【当面の予定:11月9・30日、12月7・21日】

場所：古民家和っか(春日井市大留町5丁目29-16)

内容：ファシリテーターを囲んで子どもに関する問題を語り合い、情報交換や相互学習の場とする。

ファシリテーター：石田義忠氏(たぬき先生の子育て相談室長、心理相談員、元児童相談所長)

会費：1回500円(会員限定)\*年会費として、初回に3,000円いただきます。

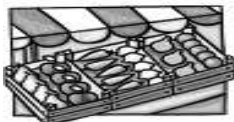
問い合わせ・申込み：まちのエキスパネット事務局(TEL 0568-52-7315)

### 和っか市(青空市)

地域のお店が集まって、青空市を開催します。新鮮な野菜やお菓子など盛りだくさん！  
老いも若きも寄っといで！

日時：11月21日(日) 10:00～15:00

場所：藤山公園(雨天中止)



\*駐車場はありません。

\*出店者募集中です。

問い合わせ先：まちのエキスパネット事務局(TEL 0568-52-7315)

\*「まちのお知らせ」への掲載記事を募集しています。ご希望の方は“こどもとまち支援センター”までご連絡ください。

(TEL0568-52-7315)



スポーツクラブNAS

〒487-0011 春日井市中央台2-1-11(アビタ館西側) TEL:92-1718(テニス除く) テニス:92-8107



スイム・テニス・ダンス・体育・新体操・バレエ・空手

\*スポーツクラブNASは、“こどもま〜ち”の活動を応援しています。

## たぬき相談室の出張相談を実施

子どもたちの問題が深刻、複雑になっています。そんな中で、関係者の方々は、日々、子どもたちの教育、保育にご苦労されていることと思います。

さて、たぬき相談室では、関係者の方々のお役に立てばと考え、出張相談を始めました。子どもたちのどんな相談でも結構です。例えば、発達障がい、不登校、多動、乱暴、減黙、おもらし等、どんな問題でも、気軽にご相談ください。職員の研修会にも応じます。

1. 相談員 : 石田義忠 たぬき相談室長(元愛知県児童相談所長)
2. 相談日時 : 原則として、毎週火曜日午後
3. 諸経費は必要です。ご相談ください。
4. 予約 : 必要 (連絡先)NPO法人 まちのエキスパネット  
春日井市大留町5丁目-29-16 TEL/FAX 0568-52-7315  
expanet@angel.odn.ne.jp

## スタッフ紹介

岩谷 直子(「こどもま〜ち」編集室長・まちのエキスパネット事務局長)  
「チームイト:トレードマーク(?)のメガネの下で光るつぶらな瞳」のほが、  
「ウーグイト:メガネのせいで器量が6割減」だったということが最近判明!!メガネって恐ろしい。

治郎丸 慶子(まちのエキスパネット代表)  
NPO活動12年。子育て23年。地域とこどもを繋げたいと思っています。  
究極の世話好きおばさんです。

上野 サナエ(チームK・O・Zスタッフ)  
小学2年の娘と、3歳の息子を持つ2児の母。  
趣味は「食」。体重増加も気になりますが、特にスイーツにはこだわりますよ〜!

岡本 文子(チームK・O・Zスタッフ)  
中1と小5とウサギの姉弟を持つ2児2羽の母。夢はウサギの結婚・出産・子育て。ウサギの花婿募集中!

浅井 孝実(まちのエキスパネットスタッフ)  
5年ぶりに、仕事と家事育児(子3人)の両立を再開!フルタイムではないけれど、その道は険しい・・・や否や??

\* NPO法人まちのエキスパネット : 高蔵寺ニュータウンとその周辺の活性化を目指して活動中。

子育て支援、障がいのある子どもたちの環境を明るくしていきたいと願う。目指すは「インクルージョン=共生」支えあう地域です。

\* NPO法人チームK・O・Z : 少子高齢化・人口減少が著しいニュータウンを、チームK・O・Zの強みである不動産知識などを活かし、多世代が住みやすい元気な「まちづくり」を目指します。

\* こどもま〜ちは、NPO法人まちのエキスパネットとNPO法人チームK・O・Zが協働で取り組んでいる事業です。

《発行元》

子どもとまち支援センター (NPO法人まちのエキスパネット内)

(住所) 春日井市大留町5丁目29-16

(TEL・FAX) 0568-52-7315

(Mail) [expanet@angel.odn.ne.jp](mailto:expanet@angel.odn.ne.jp)